

B 新しい水栓の取付け

4 配管内の掃除をします。

注意

配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。

(元栓の開閉は手順1を参照してください。) ハブラシなど
水栓金具内にゴミなどが混入すると止水不良や水栓の故障の原因となり、この場合には有償修理となります。

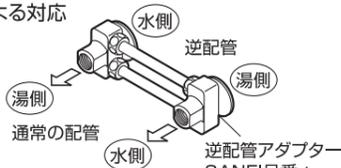


逆配管の場合

通常の配管は向かって左側が湯、右側が水ですが、逆配管は向かって左側が水、右側が湯になっています。このような場合は水を出そうとしても湯が出て、やけどをする事があります。下記の方法を行って、逆配管でも使用できるようにしてください。

■ 逆配管アダプター(別売)による対応

逆配管アダプターを使用する事によって、逆配管を通常の配管にします。



※取付方法については逆配管アダプターの説明書をお読みください。

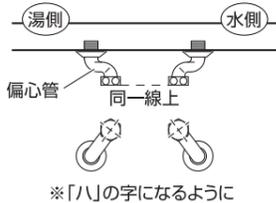
逆配管アダプター
SANEI品番：
PU70-3S

5 偏心管の取付回転を確認します。

偏心管を湯側・水側に分けて配管に取付け、何回転で止まるか回数を確認します。

アドバイス

取付回転数は後で偏心管を仮固定する際の目安にします。



※「H」の字になるように

6 偏心管にシールテープを巻きます。

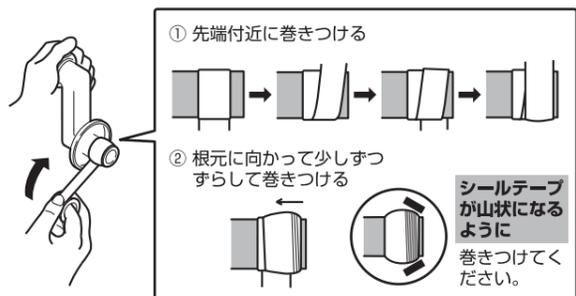
- ねじの先端を2~3山残し、シールテープを軽く引っ張りながら、矢印の向きに巻きつけてください。(10回程程度)シールテープはねじによくなじませながら巻きつけてください。



注意

シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

- シールテープを先端付近に巻きつけ、そこから根元に向かって少しずつ位置をずらし、シールテープが山状になるように巻きつけてください。(適正回数)



- シールテープをちぎり、ねじによくなじませてください。

アドバイス

シールテープが山状になるようになじませてください。テープをなじませることで、ねじ込みの際にテープがほどけにくくなり、奥までシールすることができます。



上記の巻き方でシールできない場合は、液状シール剤を併用することで、止水信頼性を高めることができます。

液状シール剤を併用する場合

液状シール剤を併用することで、止水信頼性を高めることができます。

【用意するもの】



■ 液状シール剤

- 液状シール剤は、“給水・給湯用”等の表記のものを使用してください。
- 液状シール剤の取扱説明をよく読んでご使用ください。



- シールテープを巻く箇所に、液状シール剤を薄く均一に塗布してください。

注意

- 液状シール剤は、薄く均一に塗布してください。塗布量が多すぎると、配管内に混入するおそれがあります。
- ねじの先端には塗布しないでください。ねじの先端に塗布すると、配管内に混入するおそれがあります。



- シールテープを軽く引っ張りながら、矢印の向きに巻きつけてください。(適正回数)

注意

シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。



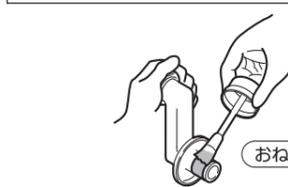
軽く引っ張りながら巻く

薄く均一に塗布

- おねじ・めねじ双方に、液状シール剤を薄く均一に塗布してください。

注意

- 液状シール剤は、薄く均一に塗布してください。塗布量が多すぎると、ストレーナなどが詰まるおそれがあります。
- ねじの先端には塗布しないでください。ねじの先端に塗布すると、配管内に混入するおそれがあります。
- 液状シール剤を使用した場合、水栓取付後は完全に固まるまで通水しないでください。(固まるまでの時間は、液状シール剤の取扱説明を参照ください。)



7 偏心管を仮固定します。

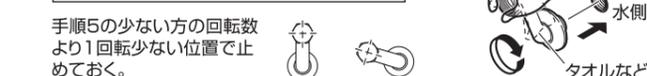
偏心管をタオルなどであてがい、湯側・水側ともに右にまわして入れます。手順5で確認した偏心管の少ない方の回転数より1回転少ない位置まで、湯側・水側ともにまわして止めておきます。

注意

漏水の原因になります。偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。もしもゆるめてしまった場合は、手順6をもう一度はじめて行ってください。

アドバイス

上記のように偏心管を少し手前で止めておくことで、ねじ込みすぎを防止します。

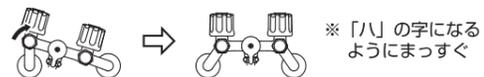


8 水栓本体を取付けます。

- 水栓本体と偏心管の間に、逆止弁コアが入っている事を確認し、水栓本体がまっすぐになるように偏心管を調節しながら手でナットを締付けていきます。

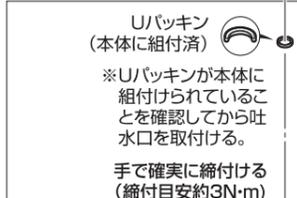
注意

- 漏水の原因になります。偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。もしもゆるめてしまった場合は、手順6をもう一度はじめて行ってください。
- 逆止弁コアが入っていることを確認してください。逆止弁コアが入っていないと水漏れのおそれがあります。
- 水栓本体は重いので落下などに注意して取付けてください。



注意

偏心管の水抜部が本体よりも上になると、寒冷地用の場合水抜きできず下になるように取付けてください。



※工具で締付けると破損するおそれがあります。



注意

シャワーホースは偏心管の下から取出してください。寒冷地用の場合は偏心管の上から取り出すと水抜きができません。

- モンキーレンチなどでナットをしっかりと締付け、水栓を偏心管に固定します。

注意

緩みがないように確実に締めてください。ナットが確実に締付けられていないと、本体が傾いたり水が漏れることがあります。

9 ガタツキ・水漏れチェックをします。

接続後、各部にガタツキがないことを必ず確認してください。ガタツキの確認後、元栓を開いて各部に水漏れがないことを必ず確認してください。水漏れがある場合は、もう一度はじめてやり直してください。最後に座金を壁面に締付けて完了です。



※品番の最後にNが付く場合、シャワー掛具が付属しません。

10 シャワー掛具を取付けます。

- 古いシャワー掛具の止めねじをはずします。

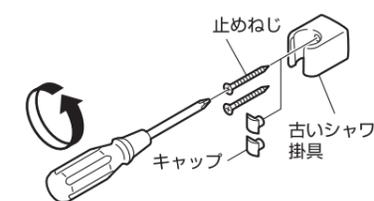
注意

止めねじがない場合や止めねじをはずしてもシャワー掛具がはずれない場合は、接着剤などで固定している可能性があります。無理にはずそうとしないで、そのままお使いください。

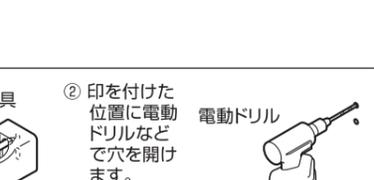
- 穴を掃除します。

■ 新設の場合

- シャワー掛具の位置を決め、ねじ取付位置に印を付けます。
- 印を付けた位置に電動ドリルなどで穴を開けます。



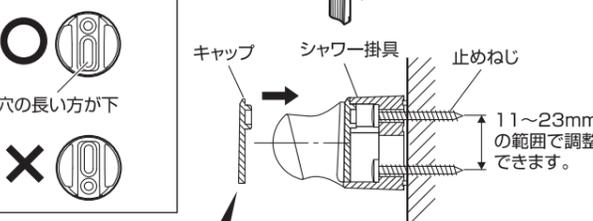
ハブラシなど



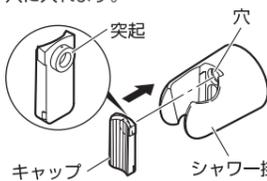
- シャワー掛具と壁の間にパッキンが入っている事を確認し、シャワー掛具を止めねじでしっかりと固定します。最後に穴をキャップでふさぎます。

注意

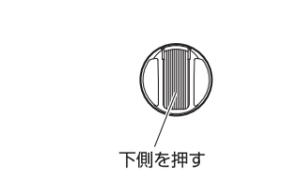
シャワー掛具の向きに注意してください。止めねじ穴の長い方が下です。



- キャップの突起をシャワー掛具の穴に入れます。

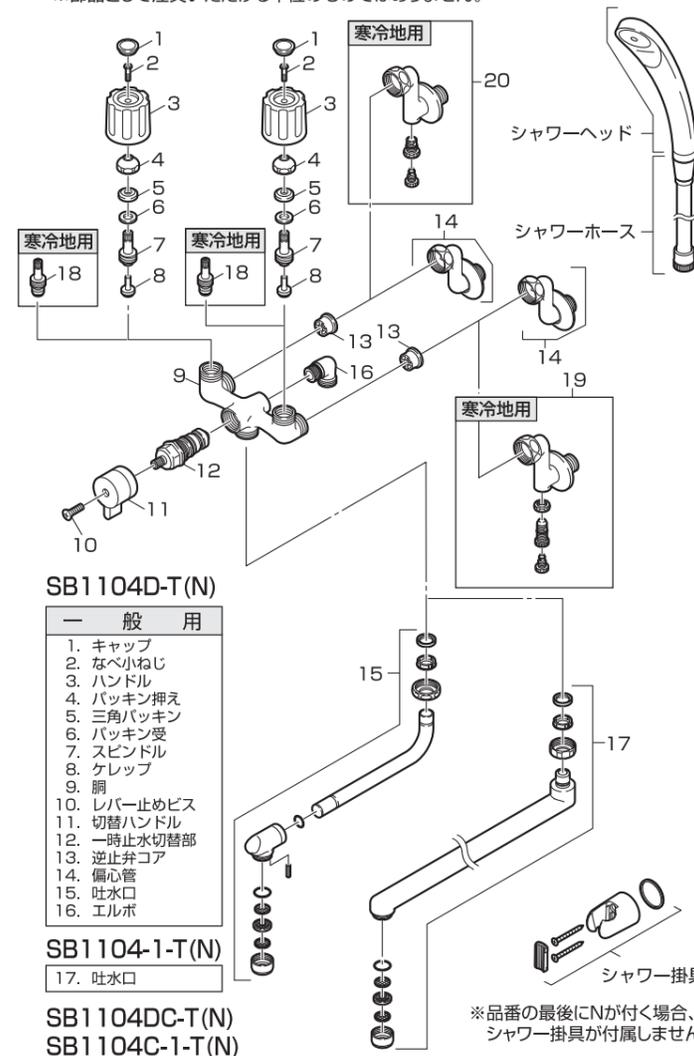


- キャップの下側を押します。



こんなときは 本製品の構造

本製品の構造を表したイラストです。構造をご理解いただくのにご使用ください。※部品として注文いただける単位のものではありません。



SB1104D-T(N)

一般用

- キャップ
- なべねじ
- ハンドル
- パッキン押え
- 三角パッキン
- パッキン受
- スピンドル
- ケレップ
- 胴
- レバー止めビス
- 切替ハンドル
- 一時止水切替部
- 逆止弁コア
- 偏心管
- 吐水口
- エルボ

SB1104-1-T(N)

- 吐水口

SB1104DC-T(N)

SB1104C-1-T(N)

寒冷地用

- 固定スピンドル
- 水側偏心管
- 湯側偏心管

SANEI 株式会社
〒537-0023 大阪市東成区玉津1丁目12番29号
お問い合わせ先 ☎ 0120-06-9721
受付時間 9:00~17:00(土日祝除く)

ツバルブシャワー混合栓(一時止水)

一般用	寒冷地用
SB1104D-T	SB1104DC-T
SB1104D-TN	SB1104DC-TN
SB1104-1-T	SB1104C-1-T
SB1104-1-TN	SB1104C-1-TN

取扱説明書

- ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。
- 保証書にお買上げ（お取付け）年月日、販売店（工事店）名の記入のない場合はお買上げ（お取付け）の販売店（工事店）に申し出ていただくか、レシート又は領収書を貼付してください。

本製品について 各部の名称

※ 各部の名称については、施工説明書「各部の名称」を参照ください。

ご使用について ご使用に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明	
警告 …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」	
注意 …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」	
▲ …… 「注意しなさい!」（上記の「警告」・「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）	
⊘ 「してはいけません!」（一般的な禁止記号です。）	⊘ 「分解してはいけません!」
⊘ 「指示した場所に触れてはいけません!」	ⓘ 「指示通りにしなさい!」（一般的な行動指示記号です。）

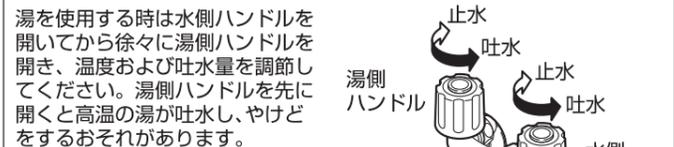
警告	
	小さいお子様だけのご使用は、避けてください。やけど・けがをするおそれがあります。
	分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	（給湯器の設定温度について） 給湯温度は最高85℃まででお使いください。85℃より高温でご使用になると器具の寿命が短くなります。なお、誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃給湯をおすすめします。
	シャワーには高温の湯（60℃より高温）を通さないでください。給湯温度が60℃より高温の場合は、吐水温度が60℃以下になるように調節してください。シャワーヘッドが破損して、やけどをするおそれがあります。安全のため、適温のご使用をおすすめします。
	●水栓の左側には直接肌を触れないでください。給湯側のため高温になっており、やけどをするおそれがあります。 ●高温の湯をお使いのときは、吐水口に直接肌を触れないでください。吐水口は高温になっているのでやけどをするおそれがあります。
	お使いになる前に、吐水口側がシャワー側かを切替ハンドルで確認してから湯をお使いください。間違えると、やけどをするおそれがあります。
	湯をお使いになる時は、必ず水側から開栓してください。その後徐々に湯側を開栓し、好みの温度に調節してください。湯側を先に開栓すると高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。
	シャワーをお使いになる前に、必ず手で適温であることを確かめてください。高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。
	他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがありますのでご注意ください。やけどのおそれがあります。

警告	
	湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。
	湯を止める時は、必ず湯側のハンドルから閉めてください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。
	シャワー使用後は、切替ハンドルを必ず一時止水・吐水口側に切替えてください。切替ハンドルがシャワー側になっているのを気付かず湯を出すと、やけどをするおそれがあります。
	定期的に、配管周りの水漏れや、ガタツキがないか確認してください。劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	（寒冷地用の場合） 水抜部は水抜き以外の目的で開けないでください。水抜部をいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

注意

	使い始めの水がにおう場合は、しばらく流してからお使いください。しばらく使われないと、水栓内の水は消毒用の塩素が少なくなり、におうことがあります。
	製品に強い力や衝撃を与えないでください。故障や漏水の原因になります。
	ハンドルは、ゆっくり回してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	止水機構を持った浄水器や止水機構を持った後付け水栓ユニットなどを、取付けないでください。吐水口部から漏水するおそれがあります。
	吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回したりしないでください。摩耗、変形などでパッキンの寿命が短くなり、吐水時に接合部から微量の水がにじみ出るおそれがあります。
	シャワーホースやシャワーヘッドを洗面器などに漬けたまま放置しないでください。汚水が器具に逆流するおそれがあります。
	凍結が予想される場所でご使用になる場合は、凍結予防を確実に実施してください。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	（寒冷地用の場合） 凍結が予想される際は、配管と水栓の水抜き操作を同時に行ってください。凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	解氷機やアースを水栓に通電しないでください。水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	長期間使用しない時は、止水栓または配管中の元栓を閉めてください。水漏れなどの事故の原因になります。

ご使用について 吐水・止水・温度調節



使用後
必ず湯側ハンドルから閉めてください。次に使用すると、器具内に滞留した高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

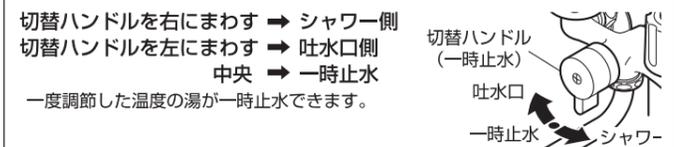
高温の湯が出ないときは？

湯側ハンドルをまわしても高温の湯が出ないときは、給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を42～60℃に設定した後、水栓側の湯側ハンドルをまわしてください。

警告
高温の湯を使用した後は、給湯リモコンとハンドルで適温に戻してしばらく水を流してください。

（注）水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間給湯機の場合、着火しないことがあります。この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）するか、給湯機の温度設定を下げてください。

ご使用について シャワー側の切替え



- 注意**
- シャワー使用後は、切替ハンドルを必ず一時止水・吐水口側に切替えてください。切替ハンドルがシャワー側になっているのを気付かず湯を出すと、やけどをするおそれがあります。
 - 一時止水以外は、必ず切替ハンドルを吐水口側にして、湯側・水側ハンドルで止めてください。
 - 切替ハンドルは全開でご使用ください。
 - 流量を調節する場合は、ハンドル側で調節してください。

- 注意**
- 止水後、シャワーヘッドから水滴がしばらく落ちる事がありますが、シャワーヘッド内の残留水です。異常ではありません。いつもポタポタ出ているのはハンドルの閉め方がゆるいか水栓の切替ユニットが故障しているかのどちらかです。しかし、使用直後の一定時間だけの現象であれば閉め方、摩耗や故障ではありません。シャワーヘッド内の水はシャワー散水板の表面張力により滞留しています。振動や浴室ドアの開け閉めによる気圧の変化などにより表面張力が弱くなり、ポタポタと流れ出ることがあります。※残留水を抜きたい場合は、シャワーヘッドをよく振ってください。
-

ご使用について 流量調節（寒冷地用の場合）

流量調節栓をまわす事により流量を調節したり、配管からの水を止める事ができます。

寒冷地用の場合

●一般用には流量調節栓がありません。
●湯側には流量調節栓がありません。

流量が少なくなる
流量が多くなる

凍結予防について 一般用の場合

- 一般用でも凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。
- 水栓より少量の水を出してください。
 - 配管部などに保温材を巻いてください。
 - 屋内の窓を閉めるなどして水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。
- ※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。
- （少量の水を出すなど）
窓を閉めるなど
-

凍結予防について 寒冷地用の場合（水抜方法）

寒冷地用は寒冷地において配管中の水を抜く設備（水抜栓）とあわせて使用する製品です。凍結のおそれがある場合は、下記の方法で水抜きをしてください。

- 1 元栓を閉め、配管の水抜栓を開けます。
- 2 湯側・水側ハンドルをいっぱいに開きます。
- 3 切替ハンドルを吐水口側へまわします。
- 4 水抜プラグをすべてゆるめ、整流器本体をはずします。
- 5 切替ハンドルをシャワー側へまわします。
- 6 シャワーヘッドを器具より下にさげ、シャワーヘッドとホースを振って水を抜き、床に置きます。

警告
水抜部は高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。ご注意ください。

■角吐水口タイプ

■部品の向き

●すべての水抜プラグ・整流器本体が確実に閉まっているか確認してください。
●湯側・水側ハンドルを閉めて配管の水抜栓を閉め、元栓を開けます。

再使用時

よく振って水を抜く

日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についての汚れを放置しておく、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

- 柔らかい布で拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

注意

- 中性洗剤以外は使用しないでください。
- お手入れの際は、次のものは絶対に使用しないでください。
 - ・酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
 - ※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
 - ・ベンジン・シンナー・ラッカー
 - ・アルコールなどの溶剤や油類
 - ・クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
 - ・ナイロンたわし・メラミンフォームなど
 製品の割れや変色変質の原因となります。

洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

すぐ拭く

日頃のお手入れ 吐水口の掃除

吐水口の汚れを放置しておく、十分な機能を発揮できない場合があります。快適・衛生的にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。（近所で水道工事があつたり、長期間使用し湯水の出が悪くなった場合にも、汚れの点検・お手入れをおすすめします。）

- 1 湯側・水側ハンドルをまわし、止水します。
- 2 整流器本体をはずします。
- 3 ハブラシなどで網部分を掃除します。

■角吐水口タイプ

■部品の向き

再使用時
整流器本体が確実に閉まっているか確認してください。

